【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年10月9日(2014.10.9)

【公表番号】特表2013-536237(P2013-536237A)
【公表日】平成25年9月19日(2013.9.19)
【年通号数】公開・登録公報2013-049
【出願番号】特願2013-526086(P2013-526086)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　43/16　　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　61/00　　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　59/20　　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　25/00　　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　55/02　　(2006.01)
Ａ０１Ｐ　 3/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　43/16　　Ａ
Ａ０１Ｎ　61/00　　Ｄ
Ａ０１Ｎ　59/20　　Ｚ
Ａ０１Ｎ　25/00　１０１
Ａ０１Ｎ　55/02　　Ａ
Ａ０１Ｐ　 3/00

【手続補正書】
【提出日】平成26年8月21日(2014.8.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
植物、特に食品作物の処理に有用な植物処理組成物であって、
前記植物処理組成物は、２段階の工程から形成される反応生成物であり、
前記２段階の工程の第１の工程では、水又は他の溶媒からなる反応媒体中で、１つ又はそれ以上の金属イオン源が、アンモニア、一級アミン、二級アミン、酢酸アンモニウムおよびその塩から選択された窒素含有化合物と接触して窒素含有金属錯体を生成し、
その後の第２の工程では、水又は他の溶媒からなる反応媒体中で、前記窒素含有金属錯体がアルギン酸ナトリウム、アルギン酸カルシウム及び／又はアルギン酸からなるアルギン酸塩と結合して前記植物処理組成物を生成する、植物処理組成物。
【請求項２】
前記窒素含有化合物が酢酸アンモニウムである、請求項１に記載の植物処理組成物。
【請求項３】
種子、植物、植物の一部又は作物に施用される場合に、３００ｐｐｍ以下の金属銅を含む、請求項１又は２に記載の植物処理組成物。
【請求項４】
種子、植物、植物の一部又は作物に施用される場合に、１５０ｐｐｍ以下の金属銅を含む、請求項３に記載の植物処理組成物。
【請求項５】
種子、植物、植物の一部又は作物に施用される場合に、１００ｐｐｍ以下の金属銅を含

む、請求項４に記載の植物処理組成物。
【請求項６】
殺虫、殺菌、うどん粉菌防除を含む疾患防除又は除草又は植物生長調節効果を示す又はもたらす他の生物学的に活性な物質を除外する、請求項１～５のいずれか一項に記載の植物処理組成物。
【請求項７】
特に、植物の処理に有用であり、また植物の望ましくない病原体、例えば、ザントモナス属の、例えば、Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ｃａｍｐｅｓｔｒｉｓ ｐｖ．ｖｅｓｉｃａｔｏｒｉａにより引き起こされ得るようなトマト植物の斑点細菌病、シュードモナス属の、例えば、Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ ＰＶ ｔｏｍａｔｏにより引き起こされ得るようなトマト植物の斑葉細菌病、Ｐｈｙｔｏｐｈｔｈｏｒａ ｉｎｆｅｓｔａｎｓにより引き起こされ得るようなトマト植物の胴枯れ病、ザントモナス属、例えば、Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ａｘｏｎｏｐｏｄｉｓ ｐｖ．Ｃｉｔｒｉにより引き起こされ得るようなカンキツ類作物のミカン類潰瘍病、又はＥｒｗｉｎｉａ ａｍｙｌｏｖｏｒａにより引き起こされ得るようなナシ状果の火傷病の発生及び広がりを防除するために有用であると予期される植物処理組成物となる、請求項６に記載の植物処理組成物。
【請求項８】
食用作物を含む植物を処理して、前記植物、特に食用作物における病原性真菌及び細菌並びに他の疾患の発生及び／又は広がりを防除し、植物の健康及び／又は食用作物の収穫の改善をもたらすための方法であって、植物、植物の一部又は作物に請求項１～５のいずれか一項に記載の植物処理組成物を施用することを含む方法。